



わが家のメディア依存度

～メディア依存を自覚し、親子でコントロールしよう～

家庭教育学級の取組紹介 ～八幡西中学校～

【取組のきっかけ】

【講演会型 → 在宅取組型】



最近、SNS やゲームなどメディア依存が心配される子が増えてきました。中には、そのために生活のリズムを崩している子もいます。それが学校生活に影響を与え、欠席や登校しぶりにつながることも考えられます。そんな子どもたちの姿を見たり、先生方から話を聞いたりするうちに、委員の方々が危機感を感じられ、早速PTA本部役員会で話題にし、親子で力を合わせてメディア依存をコントロールする取組を実施されることになりました。

【具体的な取組内容】



- ・多くの方に参加していただけるように学級懇談会の日に合わせて、e-ネットキャラバンの河合康二郎氏による、講話「インターネットの安心・安全な利用を学ぼう」を計画した。
- ・事前にアンケートをとり、生徒や保護者の質問や要望を講師に伝え、具体的な質問についての講師からの返答内容を、当日の資料として配布した。
- ・講演の内容については、生徒や保護者が実際の場面がイメージしやすいように、再現ドラマのような動画を組み込んでもらうよう依頼した。
- ・講演会の終了後は、保護者懇談会を開催して保護者同士が意見交流をした。1年生の委員から「全校に向けて『わが家の約束』の取組を発信しよう」との提案があり、全校に広めることにした。
- ・スマホやゲーム等の使用について親子で話し合い、夏休み前の7月11日～17日の1週間、「わが家の約束」の取組を各家庭で実施した。
- ・約束が守れたかどうかを「わが家の約束カード」にチェックし、取組の終了後は、親子でそれぞれメッセージを記入し、担任に提出した。
- ・夏休みの取組表の中にも、「わが家の約束」が守れたかどうかを記入する欄を設けて、毎日振り返ることができるようにした。



【使用した「わが家の約束カード」】



② 日にちを決めて 取り組もう！

約束が守れたか、振り返りを書く

③ 親子でメッセージを交換

子どもから保護者へ
&
保護者から子どもへ

① 親子で話し合って 我が家の約束を決めよう！

「夜9時以降はスマホやタブレットは親に預ける」「1日のメディア利用は2時間以内にする」など



【「結果について話そう!」・・・子ども ⇄ 保護者のコメントより】

インターネットは、調べ物をしたり、知りたい情報がすぐに分かったり便利だけど、依存や危険につながるかもしれないと知った上で使っていかなければと思いました。これからはインターネットを使う時間を減らすために、家族と一緒にいる時間を増やしていきたいです。(子ども→保護者)



子どもだけでなく、大人も依存状態になることがあるので、自分も一緒に気をつけるようにします。今日は一緒にネットの危険性について学ぶことができたので、これからは家庭でじっくりとネットの危険性について会話することが、予防になっていくと思いました。(保護者→子ども)

今まで気楽にスマホを使っていたけど、この研修会を終えて、気づかないうちに乗っ取られていたり、個人情報が出たりすることを知りました。ルールを決めること、問題が起きそうな時は、すぐに親や先生など大人に相談したいと思いました。(子ども→保護者)



講演を聴いて、個人情報、著作権、肖像権、使いすぎ・・・気をつけなければいけないことが多いと思いました。家族で話し合ってルールを決めて、スマホに使われるのではなく、上手に使いこなしていきたいですね。今後の使い方を親子で考える良い機会になりました。(保護者→子ども)

【取組を実施してみて・・・主催者の感想】

- 生徒や保護者の方々の感想を読み、「家庭教育学級をやってよかった」と思いました。生徒はもちろん、保護者の皆さんにも SNS の怖さや、使い方等を学んでいただく良い機会となりました。
- 親子で話し合って決めた約束を、今後も守っていけるように、家庭と学校が協力して見届けていくことが大切だと思いました。

【取材を終えて】



今回取材した八幡西中学校の家庭教育学級の取組は、子どもの家庭での生活時間が増える夏休みを前に、外部講師による講演会の他に、親子で話し合って家庭で取り組む実践活動も行われ、今後の家庭生活でも生かせる有意義な内容であったと思います。



地域はみんなの憩いの場

中学校をサロン会場とした乳幼児学級を開催～

わら（和良）いっこくらぶ×郡上東中学校の取組

【活動のきっかけ】

【子育てサロン型】

郡上市和良町では、コロナ禍で外出機会の少なかった乳幼児がいろいろな世代の人と関われるように、そして少子化が進む中で縦のつながりを大切にしていけるようにという願いを込めて、わらいっこくらぶ（和良町の乳幼児学級）と、郡上東中学校3年生の交流会を計画されました。

【開催までの経緯・工夫】

- ・わらいっこくらぶから開催の提案があり、中学校側は3年生家庭科の単元「幼児の生活と家族」の学習に生かせるのではと家庭科の授業として実施した。
- ・会場は、幼児のけがを防止するために、中学校のカーペットのある教室を選び、すべての机やイスを撤去し、生徒は上靴をはかないことにした。
- ・わらいっこくらぶ側は、授業の迷惑にならないようにと、校内の移動は休み時間中に行うようにした。また、いつも遊んでいるおもちゃやおやつを持参して、生徒たちと一緒に楽しく交流できるようにした。

【交流会の様子】



目が合ったら、にっこり笑ってくれた。言葉がなくても、通じ合えた！



最初は恥ずかしがっていた子も、絵本を読んでもらったら、喜んでくれた！



僕自身も、わらいっこくらぶの卒業生。幼児と遊びながら、お母さんたちともいろいろ話げできた。



わらいっこくらぶの誕生日会。中学生も一緒にお祝いしました！



終わりの会。名残惜しくて、お別れが寂しそうな中学生たちでした。

【参加者の感想より】



【わらいっこくらぶのお母様方より】

- ・積極的に関わろうとしてくださる中学生の姿に感動しました。優しく声をかけてくださり、嬉しかったです。あたたかく、素敵な、特別な時間だったと思います。
- ・中学生との交流は初めての体験でした。最初は、私も子どももとても緊張していましたが、だんだん慣れてきて、楽しく遊んでもらっていました。また、こんな交流があればいいなと思いました。
- ・普段は、なかなかこんなふれあいはできず、今日は良い機会をいただきました。地域の中学生にどんな子がいるのか知ることができました。
- ・中学生の子たちに遊んでもらえて、子どもも楽しかったと思います。これからも、いろいろな年代の人たちとふれあえる機会があればいいなと思いました。

【中学生より】

- ・乳幼児に慣れていなくて、どう遊んでいいのか不安だったけど、遊ぶ姿を見ていて子どもによって好きなものや、興味のあるものが違ってくるのが分かって、可愛いなあと思いました。
- ・交流から、自分が乳幼児の子に合わせてたり、接し方を考えてふれ合ったりすることが大切だと感じました。いろんな性格の子がいるので、ふれあい方を変えて接していこうと思いました。
- ・ほめてあげると、ほめたことを繰り返しているところが、可愛いなと思いました。乳幼児は、ほめられることによって、ちょっとずつ良い行動とは・・・を学んでいくのだなと思いました。



【取組を実施してみて・・・主催者（わらいっこくらぶ会長 蒲あかりさん）の感想】



和良町は子どもの数が少ないので、他の学年や年代との助け合いが必要だと思います。今回の取組で、中学生と乳幼児の親子が、共に楽しい時間を過ごすことができ良かったと思います。今回は、「お互いを知る」ということが目的だったので、「地域で子育てをする」という私たちの願いに一步近づけたかなと思います。

今後、散歩中やお祭りなどで出会ったときに、お互いに声をかけ合えたらいいなと思います。お母さんたちから、「これからも、いろいろな年代とふれ合う機会をもちたい。」という積極的な感想があり、嬉しかったです。

【取材を終えて】



わらいっこくらぶの提案で、今回初めて実現した中学生との交流会。緊張気味の乳幼児の保護者の方も、中学生の生徒の皆さんの笑顔や元気な姿に触れ、和やかな雰囲気の中で行われました。

今後も、地域の皆さんとの絆が深まるような楽しい企画を希望しておられ、世代を超えた交流の輪が一層広がっていくものと期待されます。

